



Asian Productivity Organization
 “The APO in the News”

Name of publication: Logistics Nippon (16 July 2018, Japan)

Page: 4

時速1000キロで貨物輸送

構想披露 あらゆる物流機器に対応

TransPod

時速千キロを超えるスピードで人と貨物を都市間で輸送。アジア生産機構が10日に東京都で開催した「持続可能な生産性サミット」で、カナダ・TransPod（トランスポッド）共同創立者のライアン・ジャンツェン氏が次世代超高速移動システム「トランスポッド」の構想を披露した。

都市間輸送に適す

2013年に米の実業家、イロン・マスク氏が構想を発表した、減圧されたチューブ内を高速で列車が通行する「ハイパール」を進めている。

ジャンツェン氏は「鋼製のチューブの中を翼の無い航空機のようなビークル（車両）が磁気浮上し、定時・多頻度で走行する高速鉄道に近い運行形態のシステムを構想している」と説明。車両や走行イメージを

イラストや映像を交えて紹介した。「旅客だけでなく、貨物も扱いたい」として、同じ路線を貨物便も走行することをイメージ。人の移動のピークを避け、夜間帯を貨物用に充て、専用車両は「標準的なパレットのほかにあらゆる物流機器に対応できるように設計にした」とした。

カナダのトロント・モンリオールは「1日1万台のトラックが高速道路を通行し、交通渋滞が激しい」として、両都市間や、米国の都市との国境をまたぐルートでの開設の可能性を探る」と強調。その上で、「渋滞解消や地球環境対策、更には近年の貨物輸送コストの高騰、労働力不足といった課題を、自動運転や高速鉄道などのシステムや交通機関と組み合わせることで人とモノの移動の両面について解消して欲しい」と呼び掛けた。

「あらゆる物流機器に対応できるように設計したい」とジャンツェン氏